

2025年10月15日

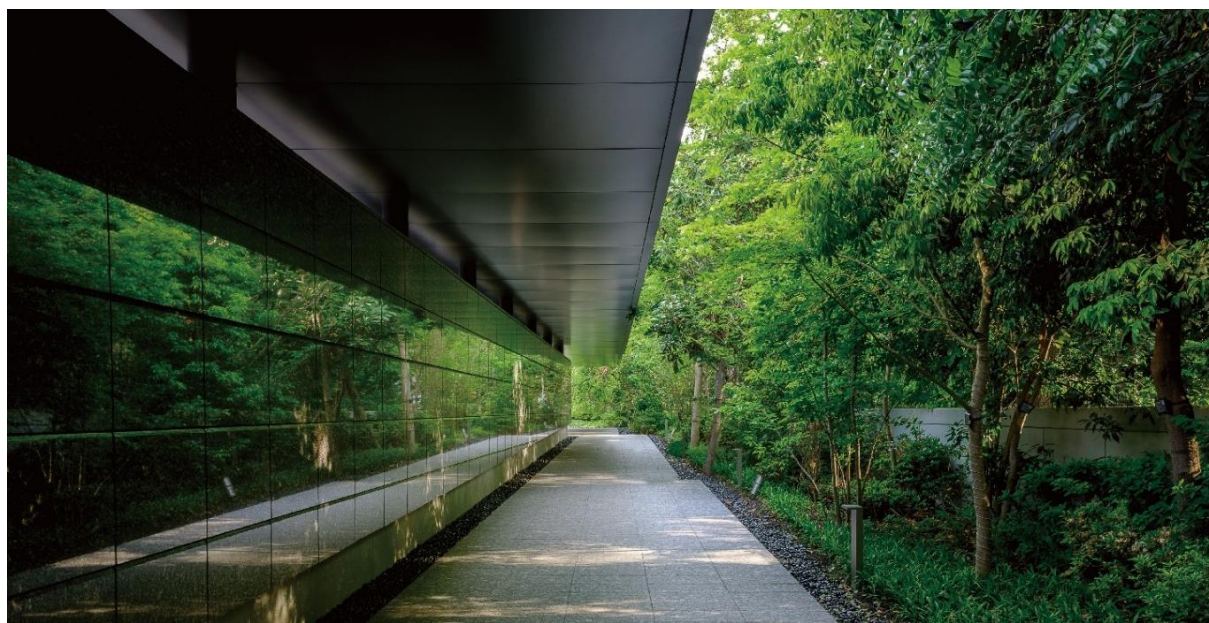
報道関係 各位

住友不動産株式会社
住友不動産ハウジング株式会社GOOD DESIGN
AWARD 2025

2025年度グッドデザイン賞 ～住友不動産グループ23年連続受賞～

集合住宅「シティハウス横浜」「ラ・トゥール御殿山」
戸建住宅「J・レジデンス 仙台港」

住友不動産グループは、下記の3物件が公益財団法人日本デザイン振興会主催の「2025年度グッドデザイン賞」を受賞いたしましたことをお知らせいたします。グッドデザイン賞の受賞は、2003年度に初受賞して以来、23年連続での受賞となります。当社グループは、各プロジェクトを通じて建築を進化させることで、地域社会の活性化や生活環境の向上に貢献するとともに、社会全体の進化へつながるものと考えております。これからも持続可能な社会に向け、さらなる進化を目指してまいります。



＜ラ・トゥール御殿山 アプローチ＞

2025年度 受賞物件一覧

1. 集合住宅「シティハウス横浜」 - 街にゆとりをもたらすキャナルテラス - / 神奈川県横浜市
2. 集合住宅「ラ・トゥール御殿山」 - 庭園との調和と共生 - / 東京都品川区
3. 戸建住宅「J・レジデンス 仙台港」 - 土間テラスがつなぐ三世代の家 - / 宮城県仙台市

※過去の受賞物件は当社の公式ページよりご確認ください。【URL】https://www.sumitomo-rd.co.jp/good_design/

街にゆとりをもたらすキャナルテラス

横浜駅周辺の新たな価値創造と魅力向上が求められるエリアに位置する集合住宅です。商業施設が密集する駅前周辺において、光と緑と風を感じられるオープンスペースをつくり、街にゆとりをもたらしたいと考えました。川からの浸水防止の高低差を利用して人々が気軽に座れるベンチや大階段をつくり、潤いある親水空間となる広場を街に提供しています。



滞留できる居場所となるキャナルテラス



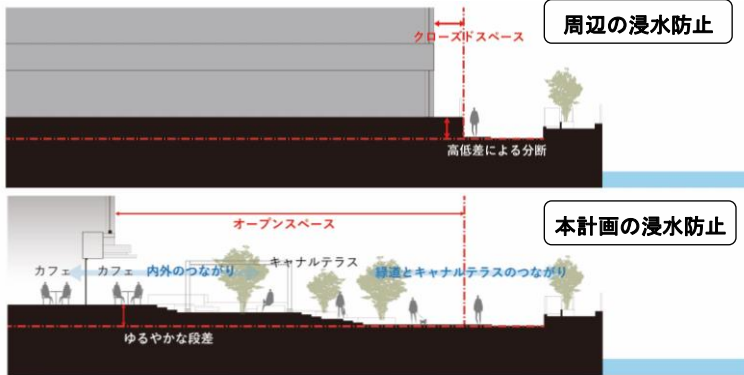
外観

浸水防止の高低差を有効利用

横浜駅周辺は地盤面と水面の高低差が少なく、川からの浸水を防ぐために地盤面を上げる必要があります。敷地周辺では単純に敷地内の地盤をかさ上げし、段差により道路と敷地が断絶されている例が多いですが、本計画は浸水防止の高低差を利用してベンチや大階段をつくり、人々が自由に座れる開かれた居場所を創出しています。



キャナルテラスにより見通しと通行利便性も改善



《審査員コメント》

近年の気候変動により、各地で大雨に起因する水害が多発している。建物内への浸水を防ごうとすると、街との境界部分に擁壁等が立ち上がり、街との連続性が失われてしまうという課題がある。本プロジェクトは、川に面する側に奥行きのある広場(キャナルテラス)を設け、微地形によって緩やかに川側道路と敷地をつなげることで、浸水対策と居場所の創出の両立を試みたものであり、非日常と日常を繋ぐデザインとして、高く評価できる。広場には木陰を作る樹木や居場所となるベンチが配置され、テラスに面した部分にカフェを設けるなど、街に賑わいをもたらす工夫がなされている。貫通通路を設けることで裏側道路からのアクセス性にも配慮されており、地域に貢献する優れたプロジェクトである。

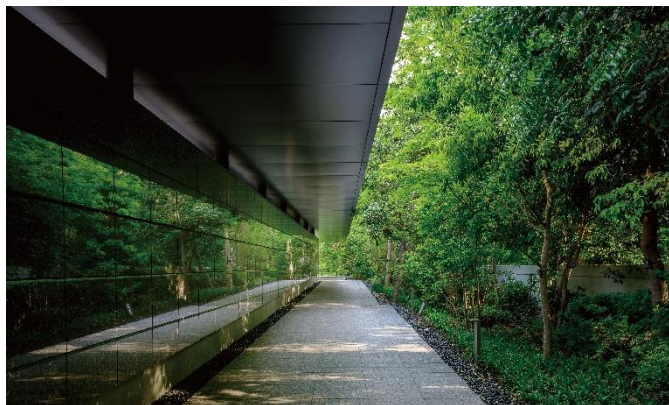
《受賞物件 概要》

所在地	神奈川県横浜市	構造種別	鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造
階数	地上18階	竣工	2024年6月
戸数	165戸、その他事務所・店舗あり		

庭園との調和と共生

本計画は緑豊かな御殿山庭園に隣接し、都心に在りながら眼下には緑の森が広がる稀有な敷地に佇む集合住宅です。庭園に隣接する敷地特性を生かし、街や庭園と住宅を繋ぐ中間領域となる半外部空間を積極的に活用。軒下空間として設えたアプローチや、奥行の深いバルコニーを半外部空間として庭園と繋がる空間を提案しました。

さらに、敷地内の既存樹を庭園側に残し、庭園の自然との調和・共生を図りつつ、スケール感・色彩・素材等を十分吟味し、地域景観を保全する計画を行いました。庭園と繋がるように残した既存樹は、隣接する自然の緑と一体的な風景を生み出し、敷地を超えた奥行感のある緑の地域景観を創出しています。



街の喧騒から静謐な空間へと誘うアプローチ



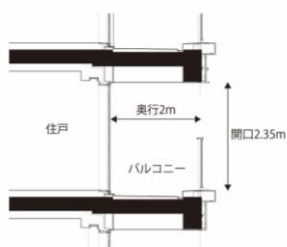
外観

自然とつながる半外部空間

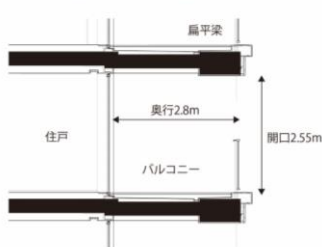
庭園側のバルコニーは奥行2.8mの深い軒を作り、自然の緑が視界に広がる室内空間と連続した半外部空間の居場所を創出しています。主開口は梁せいが小さい扁平梁とすることで開口の高さを上げる工夫を施しており、庭園との繋がりをさらに感じることができます。セットバックによるルーフバルコニーやテラスも庭園側に配置し、都心においてもプライバシーを保ち自然を感じられるよう、敷地特性を最大限に生かした配棟計画を実施しました。

半外部空間バルコニーの断面イメージ

〈一般的なバルコニー〉



〈半外部空間バルコニー〉



《審査員コメント》

一面が道路、一面が庭園という恵まれた立地特性を最大限に生かした集合住宅である。特に庭園側に設けられたバルコニーは、扁平梁などの構造的な工夫やゆとりある奥行きの効果もあって、集合住宅とは思えない「外の部屋」とも呼べる空間となっている。さらに敷地内に施されたランドスケープデザインやアプローチの半屋外空間、緑に包まれたエントランスホールなどが連携し、どこにいても都心とは思えないほど豊かな自然環境を享受できる場となっている。敷地の文脈を生かすという設計の基本に誠実に取り組んだからこそ生まれた豊かさである。

《受賞物件 概要》

所在地 東京都品川区
階数 地上10階 地下1階
戸数 43戸

構造種別 鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造
竣工 2025年1月

土間テラスがつなぐ三世代の家

共働き夫婦の比率が約7割となった現代において、育児、家事、仕事の両立は課題のひとつですが、親世帯と同居し協力を得られれば大きなサポートとなります。しかし、異なる世代との同居は生活リズムの違いによるストレス軽減のために住空間を分離するケースが多く、日常的な交流がとりにくいというデメリットがあります。そこで、室内からだけでなくテラスを通じて外部からも祖父母の趣味部屋に孫が気軽に遊びに行けるようなプランとし、世帯間の交流促進を試みました。コの字型に挿入された現代の縁側のような「土間テラス」は、上下階をつなぐ装置としての役割も果たし、家族の気配を伝えてくれます。三世代で暮らすことの温かさを感じられる住まいとなりました。



外観

Point 1 土間テラスが内と外をゆるやかに連続させ、祖父母と親と子の三世代をつなぐ

土間テラス及びバルコニーを平面上にコの字型に入れ込むことにより、外からの視線をやわらかく遮りつつ、自然な風や光を室内の奥にまで引き入れることを可能にしました。縁側のような土間テラスは屋内の延長として使用でき、自然を感じながら過ごせる心地よい中間領域となっています。



和室、おじいちゃんの部屋、おばあちゃんの部屋をつなぐ「土間テラス」



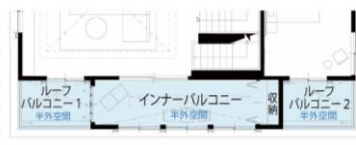
Point 2 「間」をコの字型に入れ込むことにより、外からの視線を遮りつつ室内に自然な風や光を引き入れる

外部空間という「間」をコの字に挿入することで、上下階に視覚的なつながりが生まれ、離れていてもお互いの気配を感じることがができます。家族の気配を感じながら過ごせることは、安心感につながります。



Point 3 建物の角を開放し、更にインナーバルコニーと連続させることで、室内から外部へ空間を延長

建物の角にバルコニーを設けることで奥行と陰影が生まれ、建物に彫りの深い表情を加えています。更に、インナーバルコニーと連続させることで、室内から外部へ空間を延長させています。



《審査員コメント》

三世代同居にふさわしい、説得力ある住宅像が提案されている。水平基調の外観と深い軒を特徴とする本シリーズは、過去のグッドデザイン賞でもその完成度の高さが認められてきた。今回の三世代同居モデルでは、コの字型の構成の内部に土間テラスを挿入し、世代間の交流を促進している。1階の角を単純に開放するのではなく、外部空間をコの字型に取り込むことで、従来から展開されてきたマッサとヴォイドの関係性をさらに洗練させ、信頼感のある美観と機能性を高めている点が高く評価された。

《受賞物件 概要》

所在地 宮城県仙台市
階数 地上3階
構造種別 木造(WP工法)